

オンリーワンの滞在型保養温泉地を目指して(大分県・由布院温泉)

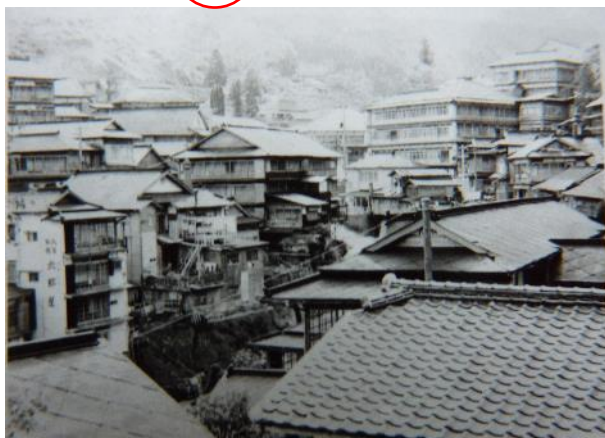


一般社団法人由布市まちづくり観光局 生野敬嗣

オンリーワンの滞在型保養温泉地を目指して(大分県・由布院温泉)

1959年(昭和34年) 湯布院温泉 国民保養温泉地に指定

湯平温泉



由布院温泉



オンリーワンの滞在型保養温泉地を目指して(大分県・由布院温泉)



たっふりとそそぎ、
潤いとしほを与えてくれる

国民保養温泉地
湯布院温泉郷

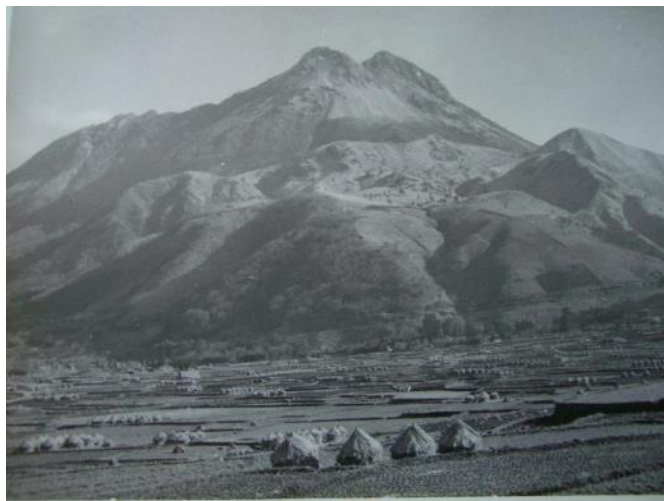


山布市
湯布院温泉郷

山布市は全国屈指の湧出量、源泉数を誇る温泉と、自然環境やまちなみ、風土を含めた山布市全域が「湯布院温泉郷」として国民保養温泉地に認定されています。

✓CHECK!✓

- ☑ 由布院温泉
現在800を超える源泉から毎分45ℓを湧出。共同温泉では地元の人とふれあい、宿では開放感溢れる露天風呂や貸し切りの内湯など、さまざまな湯が楽しめます。
- ☑ 塚原温泉
伽藍(がらん)岳の中腹にある塚原温泉は、日本三大硫湯の一つ。泉質は強酸性で全国から多くのファンが訪れます。
- ☑ 挾間温泉
黒山に点在する温泉地で、美肌成分の高さが自慢。特にカリウムやナトリウムイオンは大分県の中でも高い含有率を誇ります。
- ☑ 庄内温泉
黒岳山麓に近い国道210号周辺に点在。「ほのほの温泉館」は庄内駅にほど近い場所にあり、地域の人たちに大切に利用されています。
- ☑ 湯平温泉
鎌倉時代の開湯で、800年の歴史を持つ湯治場。江戸～昭和のはじめまで豊後の名湯と名を馳せていました。石畳に沿って旅館が建ち並びます。



由布院温泉の歴史①

由布院温泉は、かつては「奥別府」とも呼称され、隣接する別府温泉への観光客がちょっと足を延ばして訪れるだけの、別府の隆盛に霞んだ特色のない田舎の温泉町であった

・戦後二つの選択

由布院盆地ダム計画

由布院盆地をそのままダム化し、人造湖を資源とする観光地にしようとする計画が持ち上がったが、住民の反対や資金面の問題などで計画打ち切り。

自衛隊誘致運動

ダム問題の嵐が過ぎ去ったものの、まちにはこれといった産業もなかったことから自衛隊を誘致し成功。現在も湯布院駐屯地が存続しており、まちの財政面等に影響を与えている。

由布院温泉の歴史②

・時代に逆行する自然保護運動

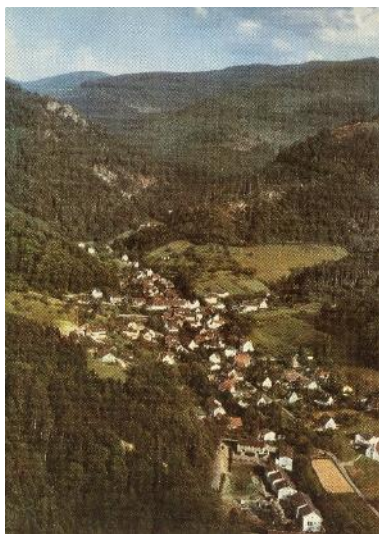
別府温泉からの道沿いにある「猪の瀬戸湿原」にゴルフ場を造る計画が持ち上がり、別府からのお客さんに見てもらう景観が損なわれるからと、旅館の人達を中心に反対運動が起こる。当時の風潮は自然を壊して施設を造るのが当然といった感じの中、著名人への100人アンケート等を展開したこともあってマスコミの注目を浴び、全国に由布院温泉の名前が紹介された。



・まちづくり運動の始まり

自然保護運動が契機となって、まちの将来を考える機運が盛り上がり、人縁・地縁・職層を越えて組織された「明日の由布院を考える会」が発足。外部の専門家なども加わることで、小さな田舎の閉ざされた社会が大きな刺激を受け、次々に新しい考え方や思想を取り入れた議論が展開していくこととなった。





由布院温泉の歴史③

・欧州に学ぶ

当時の町長が西ドイツの保養温泉地を視察して見てきた自然環境や市民の暮らしぶりの話に影響を受けて、「3人のケコズ(馬鹿者たち)」が約一ヶ月間の欧州視察へ出かけ、各地でカルチャーショックを受けて帰ってくる。中でもドイツのバーデンヴァイラーという小さなまちで、自然豊かな景観と静けさを守るために、車を締め出し、質の高いサービスを行うといった覚悟を見せられたことが後の観光まちづくりに大きな影響を与えた。

・保養温泉地を目指す

日本初の林学博士・本多静六氏が、由布院はドイツの保養温泉地のように森林公園の中にまちがあるようなまちづくりを行った方が良いといった内容の講演を行った記録「由布院温泉発展策」の存在も後押しとなって、由布院が目指すべく方向性「保養温泉地」が定まった。

保養地へ向けた具体的な取組例①



「歓楽街のない温泉地」

- ・宿も飲食店も宴会場をほとんど持てず
団体客の受け入れはほぼ無理
- ・そもそも歓楽街のない田舎
- ・夜の世界には反社会的組織等の存在
- ・当時の温泉地は男性客中心の世界
- ・当時の由布院の宿は閑古鳥が鳴いていて
女性客お一人でも泊まってほしい



個人旅行・女性

保養地へ向けた具体的な取組例②

「アーバンな田舎まち」

「上質な宿」

- ・観光資源は自然と温泉だけ
- ・都会への反発
- ・でも都会の人に来てほしい
- ・インテリ移住者の存在
- ・その移住者に感化された地元住民が多趣味に
- ・宿を楽しく経営したい



個性豊かな(オンリーワン)施設



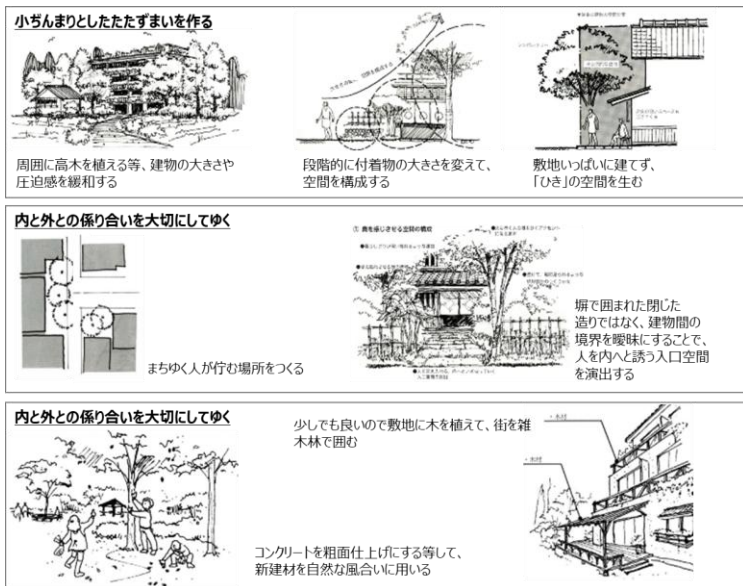
保養地へ向けた具体的な取組例③

「由布院らしさ」

- ・由布岳と調和したのどかな里山風景だった
- ・観光客が増え始めると、新たな建物も増えよその観光地や都会の新興住宅地と変わりのない町並みになりつつあった
- ・由布院としてあるべき風景のイメージを定め共有化することが必要と、議論を深めていき「ゆふいん建築・環境デザインガイドブック」を刊行



落ち着いた環境



(ゆふいん環境・建築デザインガイドブックより)

オンリーワンの滞在型保養温泉地を目指して(大分県・由布院温泉)



心得 1

盆地の程よい大きさを大切に、
小振りなつくりとする

■ 大きなものは、ゆふいんの風景には収まらないので抑えるべきである。大きな看板を設置することは、先人達がこれまで、盆地内の限られた平運の中で、自然景観を尊重しながら細やかに暮らすことでつくり出してきた「ゆふいんならでほの風景」のバランスを崩してしまうことである。

① 由布山を敬い、眺めを大切に、高さを低く抑えていく



○ 建物よりも高い看板は立てないことで、由布山への眺めを逃さないようにする。



○ 高さを低く抑えた建物が並ぶ通りでは、その連続したスカイラインを壊さないようにしたい。建物よりも高い看板を立てないことで、印象的な由布山への眺望を守ることができる。

② 盆地の程よい大きさを大切に、看板を小さく抑えていく



○ 大きな看板は、ゆふいんの風景には似合わない。看板は建物の広さや建物のサイズにあった大きさとし、できる限り小さく抑えていく。

③ 看板を建物と一体的にデザインし、看板が小さく見えるように工夫していく



○ 比較的大きな看板でも、低く抑えたり、引いて設置することによって、その大きさを相対的に小さくすることができる。また、建物と調和する色や素材を選ぶことで、建物と一体となって、通りを行く人にメッセージを伝えることができる。



○ 番号を示す看板は大きくなりがちである。周囲に樹を配置することで、その大きさを和らげながら、ゆふいんらしい風合いを持った柔らかな入口をつくることができる。

保養地へ向けた具体的な取組例④

「健康と保養」

- ・心身の健康が人生を豊かに
- ・温泉が身近にある生活
- ・温泉の恵みをいろんな角度で体感
- ・リピート増および滞在時間の延長
- ・自然環境の豊かさを歩いて体感
- ・自然環境の保全が温泉の恵みにつながる



観光地より保養地



市内
各エリアの
泉質

由街市

單純湯漿

● 2014年10月14日(水) 17:27
二日と早く寝たらしい。

由布子

酸性-含鉄・アルミニウム-硫酸塩泉

カルシウムイオンが骨を強く
153mg/日にとり続けたには
すぎぬ。

目布可

ナトリウム一塩化物・炭酸水素塩泉

カルシウムイオンに中心を占める(ng/kg)
 体内に蓄積され、骨に沈着する

11 60 11

ナトリウム-塩化物系

カレンのイアンとキムは、
ゆめが(95mg)の、1000
に落ちた。

オンリーワンの滞在型保養温泉地を目指して(大分県・由布院温泉)

■地域の現状および課題

➤ 昔ながらの環境を守りつつ、国内外に知られる温泉地に

- 由布岳の麓に広がる盆地内の大規模開発を抑制しながら、自然豊かな滞在型保養温泉地としての環境維持を図っている
人口約1万人の町に、国内外から約400万人もの観光客が訪れるようになった



➤ 一部のエリアでオーバートーリズムの発生

- 中心部、特に「湯の坪街道」～「金鱗湖」周辺への一局集中化が進み、“静けさ”の喪失、車の渋滞、駐車場不足、歩行者の安全性の低下など、様々な問題が起きている



観光客で混雑した状況が発生し、静けさのある雰囲気が崩れている



車と歩行者が混在し安全性に影響

オンリーワンの滞在型保養温泉地を目指して(大分県・由布院温泉)

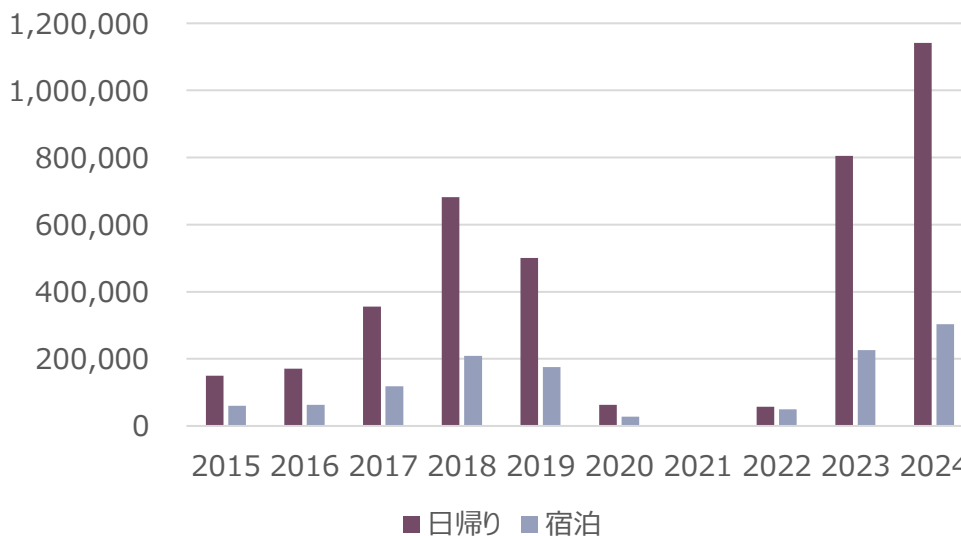


■ 地域の現状および課題

➤ 外国人旅行者の増加

- ・ この10年で急激な増加
- ・ コロナ禍後に過去最高値
- ・ 約8割が日帰り団体客
- ・ 温泉には入浴しない
- ・ 宿泊は個人客中心
- ・ 国籍はアジア圏が約9割
- ・ 韓国・台湾・中国・香港など
- ・ 最近は東南アジア諸国が増
- ・ 夏場は減少傾向（猛暑の影響？）

外国人旅行者推移



➤ 外国人旅行者の傾向など

- ・ 九州北部を2～4泊程度の短期滞在者が多い
- ・ レンタカーで移動する方が増加
- ・ 宿泊の方は温泉を楽しみにしている人が多い
- ・ 日帰り団体客は「食べ歩き」「ショッピング」
- ・ 立ち寄り入浴する方は少ない
- ・ 入浴マナーは10年前に比べてかなり改善

ご静聴ありがとうございました



＜写真：ドイツ・バーデンヴァイラー＞